『輝く雪』のまち　ぬまた町

みんなの議会

2019年５月
第77号

平成31年 第１回定例会 …… 2

議案26件とその他の案件８件を審議しました。
予算等審査特別委員会を設置し、予算と条例の審査をしました。

移住定住の推進を …… 9

「住んでもらえる町づくり」を推進するための対応策を聞きました。

所管事務調査報告 10・11

ふるさと納税の効果的な活用と子育て環境を充実させることに視点をおいて意見を示しました。

平成31年 第1回 定例会

3月7日～13日

3月7日から3月13日まで平成31年第1回定例会が開催されました。

上程された主な議案

総務民教常任委員会所管事務調査報告、産建福祉常任委員会所管事務調査報告があり、久保委員長、長原委員長の報告のとおり承認されました。
（詳細10～11ページ）

◎平成30年度一般会計補正予算の総額に8876万円を追加し、総額50億1490万円としました。

地方交付税の確定や不用額の精査を行いました。
歳出の内容は次のとおりです。

〈主な内容〉
・ふるさと納税関連経費
記念品、通信送料など
1790万円　増
・小学校光熱費
灯油価格が高騰のため
1800万円　増
・長期債繰上償還元金
1億2173万円　増

◎主な条例改正
・沼田町子育て交流広場条例
・沼田町学童保育所条例
・沼田町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
・議会の議決すべき事件に関する条例の一部を改正する条例
・沼田町火葬場の設置及び管理に関する条例を廃止する条例

◎平成31年度一般会計特別会計予算

議会では高田副議長を委員長に大沼議員を副委員長とする予算等審査特別委員会に平成31年度予算9件、条例5件を付託しました。
（詳細4～5ページ）

第2回 臨時会
2月13日

一般会計補正予算
・町道除雪業務委託料
2000万円　増

第3回 臨時会
4月25日

専決処分
高齢者グループホーム特別会計
・灯油流出処理業務委託料　912万円　増

請負契約の承認
旧沼田厚生クリニック解体工事
・契約金額　1億1232万円
・契約相手　渡部建設株式会社

解体が決まりました

除雪車フル稼働

暮らしの安心センター非常用発電機設置工事
・契約金額　5428万円
・契約相手　株式会社西口電気

表紙の写真

認定こども園の卒園式のひとこま。緊張がほどけました。もうすぐ一年生、楽しみですね。

議長退任にあたって

渡邊敏昭

町民皆様方のご指導、ご鞭撻を戴きながら4年間、議長の席に付かせて戴きました。

議長退任にあたり、ご挨拶させて頂けます事にお礼申し上げます。

議会運営に関しては、議員と住民との対話の機会を多く持ち、個人ではなく、議会として町の指針に一石を投ずる事が出来る議会づくりを進めてきました。

また町政については、少子高齢化が進む中で、町民の安心と、買い物対策の関連施策を進めてきました。

さらには、子育ても安心して出来る街づくりにも着手させていただきました。

教育行政についても、小中一貫連携教育の成果が出始め、生涯学習に優れた町になりつつあるのはうれしい限りです。

財政状況が回復していると言っても財源を地方交付税に頼るなかで、議会のもう一つの仕事である行政のチェックを怠る事無く進めて来られた事には、議員各位の姿勢に大いに感謝申し上げます。

人口減少と高齢化が進む中、自立を選択した町として、これからも後退せずに前に進んでいただく事をご祈念申し上げて、退任の挨拶と致します。

大変有難うございました。

4年間お世話になりました。

今回の定例議会の傍聴者は、16名でした。

みなさまの傍聴をお待ちしています。

予算等審査特別委員会

委員長 高田　勲　副委員長 大沼　恒雄

3月7日に第1回定例会が開会、本年度予算など議案が提出されました。条例・予算案が予算等審査特別委員会に付託され3日間審議しました。

総務財政課の地方財政推移の説明から始まり質疑をおこないました。

最終日に総括質問をおこない審議の結果、条例案5件と予算案9件に意見を付して認定することに決定しました。

今年は選挙時期の関係から人件費などの経費を計上する骨格予算として提出されました。

総括質問

質問総数101件から町長に答弁を求めた5件を掲載します。

ふるさと納税

久保議員

返礼品の更なる充実を目指し、寄付者から意見を聞き取り、開発につなげては。

寄付者の意見を広く聞き開発に役立てたい。

専従職員を置いて沼田町のPRと新商品開発を連携して出来ないか。

民間業者と連携して商品ラインアップを増やしていきたい。

移住定住施策

小峯議員

国の幼保無償化に伴い、財源を更なる子育て支援の充実に充てれないか。

妊娠出産子育ての手厚い政策に必要と考えている。

有害鳥獣対策

長原議員

電牧柵設置と囲いワナは農作物への被害防止にはなっているが、頭数減には至っていない。今後の考えは。

平成25年の更新地区設置時に1、100件の被害が平成30年は140件に減少している。

平成30年度エゾシカ96頭を捕獲している。大型囲いワナの設置研修を受けている。

駆除員の今後の処遇は。

駆除員の考え方を尊重したい。

更新地区の電牧柵

ふるさと資料館

杉本議員

公共施設等総合管理計画に収蔵品を移設し解体を検討するとあるが方向性を明確にしてほしい。

正式な協議ではないが、維持管理するのは困難と思う。柔剣道場を保管庫にするなど協議してからになる。

労基法改正

鵜野議員

各施設の有給付与に伴うシフトの維持に必要な人材、財源の確保と外国人受け入れの是非は。

業務内容の検討とボランティアで対応したい。

処遇改善加算を財源に考えている。広く検討する必要がある。

平成31年度

3月8日・11日・12日

一般会計 50億6000万円
特別会計 18億3000万円
総　　額 68億9000万円

総務費
7億4500万円（31事業）
- ふるさと納税関連 …… 2億8000万円
- 幌新温泉改修工事 ……7730万円
- 地域おこし協力隊関連 ……4530万円

民生費
6億8800万円（22事業）
- 認定こども園支援 ……3360万円
- 子育て交流広場 ……360万円
- 温泉入浴促進 ……120万円

衛生費
4億3000万円（13事業）
- 予防接種関連 ……1700万円
- 暮らしの安心センター運営 ……1690万円
- 旧厚生クリニック解体 …… 1億2400万円

農林水産業費
6億4800万円（25事業）
- 中山間地域交付金関連 …… 1億1550万円
- 多面的機能交付金関連 …… 1億1940万円
- 農業所得向上対策 ……786万円

商工費
1億900万円（9事業）
- 夜高あんどん継承事業 ……833万円
- 商工会運営補助 ……853万円
- 夜高会館改修 ……2670万円

土木費
6億4200万円（12事業）
- ロータリ除雪車更新 ……7400万円
- 公営住宅整備関連 ……3680万円
- 公園管理関連 ……2800万円

教育費
2億8900万円（20事業）
- 小中学校パソコン更新事業 ……4430万円
- 沼田学園関連 ……630万円
- 社会教育推進関連 ……380万円

答弁中の金平町長

◆ 予算審査に付された意見 ◆

1．更なる子育て支援策の展開

国による幼保無償化が10月から開始される予定です。

町の自主財源で国や道より先行実施している本町においては、このことにより発生する財源を利用し、新たな子育て支援策の展開を望みます。

2．各施設の労働力の確保

本年４月から労働基準法が改正となります。

より充実した公共サービスの維持のためにも、労働力と財源の確保を視野に入れた体制づくりが必要となります。

また、将来的には外国人労働者の受け入れを視野に入れ、本町が中心となって定住自立圏での広域的な対応が必要と考えます。

町長への一般質問

問 沼田町の10連休対策は
答 生活に支障が無いように取り組む

高田　勲 議員

今年は皇位継承の年です。昨年の12月に、4月27日から5月6日までを、10連休とする法律が成立しました。同時に国民生活に支障をきたすことが無いように、政府に対応を求める付帯決議も採択されています。

この時期の沼田町は、基幹産業である農業が田おこしの最盛期です。それに追随して、商工業においても活発に経済活動が行われることが予想されます。

町が管理している施設は連休期間中とは言え、町民が不便無く生活できる体制であるべきです。

連休中の各施設の運営方法をどのように予定しているのか。

役場庁舎内での緊急時における体制は、職員の動向を確認しながら自宅待機や招集をかけられる体制をとります。

厚生クリニックは、医師の勤務体制上10連休となります。定期通院されている方の薬の処方は、支障の無いように対応すると聞いています。

ごみ収集もライフライン

安心センターは、日中の利用はできます。

ディサービスと訪問介護については、利用者の意向を聞きながら調整中です。

こども園と学童保育についても、保育ニーズを調査中です。

ごみ収集は通常どおりの営業をします。

不便の無いように対応し、事前にお知らせします。

問 町民体育館新築の可能性は
答 総合計画の中で議論を進める

久保元宏 議員

運動施設の老朽化が進んでおり、維持管理にかかる経費も増加傾向にあります。

担当の部署では、これらの施設の整備計画を策定されていると思いますが、とりわけ中心施設である町民体育館については、整備を急ぐ必要があると考えます。

隣町では、子ども向けの娯楽施設を建設して交流人口の増加に成功しています。沼田町も、安心センターの「なかみち」の延長に体育館を新築して安心センターとの相乗効果を狙ってはどうか。

担当の教育委員会では現在、どこまでの議論がなされているのか。解体新築に関する財源を、どのように確保するのか町長と教育長に聞きたい。

町は「公共施設等管理総合計画」で施設の現状を分析して、今後の指針としています。

町民体育館は建設から40年以上が経過していますが、他の運動施設や類似施設との統廃合も含めて、検討していきます。

スポーツをする人達は、競技スポーツから楽しんで行う軽スポーツへ変ってきています。このことからも建設場所については、総合的に検討する必要があります。

老朽化した町民体育館

今年度から始まる第6次総合計画の中で、概要が示されます。

吉田教育長

平成29年の総務民教常任委員会の報告を受けて、教育委員会の内部検討を進めています。

財源を含めてや具体的な内容にまでは至っていないのが現状です。

町の財政に与える影響を勘案したとき、同じく老朽化が進んでいる現中学校体育館との共有化も視野に入れ、第6次総合計画の中で検討を進めて行きます。

問 クリニックの入り口の安全対策は
答 材質などを検討して対策したい

小峯　聡 議員

問　昨年の12月は根雪が遅く厚生クリニックの入り口周辺が凍っていて、日中も北側になるので氷が解けず滑る状態が続いていました。杖をついたり、車いすでリハビリに来ていた方たちは大変だったと聞いています。冬でもゴムマットの様なもので安全を確保できるようにするなど対策を検討していたのか聞きたい。

答　クリニックや安心センターの職員が小まめに玄関前の除雪や砂を撒くなどして、支障の無いように対応はしてましたが、十分ではなかったと思っています。利用者の安全確保を第一に、今のところ小まめに除雪や砂を撒いたり、塩カルを撒くなど今後も続けていきたいと考えています。具体的にゴムマットなどは検討はしていませんでしたが、それも有効な手段だと思います。どのようなものが良いか検討して、適切な対応を今年の冬まで取りたいと考えています。

厚生クリニック

問 原野中央線水路の整備を
答 調査し適切に対応したい

長原　誠 議員

問　町道原野中央線に沿って流れる水路は道路側溝や沿線住民の生活排水路及び農業用水路を兼ねた水路です。例年3月には下流部より国道275号まで融雪水害対策として町の事業で水路の雪上げを実施しています。

この水路は町と改良区で管理区間が決められています。

5月より8月までの期間は原野用水管理組合が使用しています。この期間は除草や水路清掃を組合で維持管理を実施しています。

昨年、管理組合で水路内の清掃を行った所土砂の堆積が多く組合員による作業が困難な状況です。

水路の清掃を町として事業化できないか、また水路の町道側の積ブロックが永い年月が経過しているため、崩れている所も見られます。水路の点検整備が出来ないか考えを聞きたい。

答　管理区域は詳しく調べていませんが、不便な状態は理解できます。

用水の管理は改良区ですので改修も含めて融雪後に現地確認し、補修などの場所があれば適切に対応していきたい。

土砂堆積

問 国保税の一部を町費負担で
答 税の公平性の観点からむずかしい

橋場　守　議員

問　国民健康保険税の算定方式は所得割、資産割、均等割、平等割となっています。

協会健康保険や社会保険には均等割、平等割はありません。

国保では収入のない家族の子供も同額の保険税が賦課されています。

国民皆保険と言う立場から、公的医療保険は加入する保険によって負担や給付に格差があることは、趣旨に反すると思います。見解を聞きたい。

また、国保に対する国庫負担割合も25年前の50％から年次改悪され、2015年には20・3％まで引き上げられました。

「高すぎる国保税を何とかして」との住民の声にされ全国知事会、市町村会も国保税への定率国庫負担の増額、2014年には一兆円の公費投入を要望しています。町長もこれを支持して欲しいがどうか。

以上のことから、町独自で「人頭割」の子供部分を町費で軽減免除を行うよう要望するが考えを聞きたい。

答　国民健康保険制度の趣旨に沿って運営しています。他の保険と違い所得だけでなく多様な視点で公平な税負担を求めています。国保運営協議会や町議会での議論を経て決定していますので現状難しい。

子供部分として町の政策で子供の医療費無償化を行っています。国庫負担増の働きかけは財源は別として妥当なものと思います。

橋場議員のそのほかの質問

問 消費税値上げに反対を

答 公平な税負担は必要と考える

問 TPP11、日米貿易協定による農業の懸念は

答 沼田農業を守って行きたい

問 国連の「家族農業の10年」決議の見解は

答 安全な国内農産物で食の安全を進めて行きたい

問 関係人口の将来の考え方は
答 移住定住の次の段階を検討したい

杉本邦雄　議員

問　人口減少を止めるために今取り組んでいる施策をもっと充実して、子育てが出来るような若い世代が沼田に居住するようにしないと人口が確保出来ません。そのために関係人口を増やして行くことが必要と考えます。最初は夜高あんどん、ふるさと納税などで特産品を購入していただき、後で関係を持ってもらうためにふるさと住民制度や、支援組織など新しい仕組みが必要と考えます。

近隣との人の取り合いでは、継続的に人口増加は見込まれません。沼田町の考え方を聞きたい。

答　本町も施策が充実し、町全体も変わってきました。移住定住応援室や農業商工課が、沼田町をPRしてきた効果が現われて来ています。ふるさと住民制度や、支援組織など、次の段階として、必要と考えます。

納税の寄付から、頻繁な訪問、二地域居住などがあります。ふるさと納税は2万人の方が毎年納税して頂いて、その方達のコメントを見ると、「美味しいお米が出来ている沼田町に一回行ってみたい」とか、「北海道に来てみたい」と書いている方がいらっしゃいます。その2万人の方々に頻繁な訪問、居住のためにどうアプローチするのかが、次の課題と考えます。

移住者のための住宅建設を進めてます

問 住んでもらえる町づくりを
答 必要なことは進めたい

大沼恒雄議員

移住定住施策に起爆剤はないと思っています。力を合わせて、話し合っていくことが必要と思っています。

沼田に住んでもらえる町づくりを推進する上で次の質問をします。

問 子育て支援として、保育料完全無料化を行っています。5歳、2歳、新生児がいる5人家族で農業を営む家庭の主婦の場合、産後8週間は一時預かりを受けられますが、期間を過ぎて保育の事由に該当しないと預かってもらえません。対応策を聞きたい。

答 個別の事情があることは認知しています。沼田町での子育て環境を整えるのも大切ですから検討したい。

問 勉強会を主に難病患者会を再結成したいと考えています。講師の派遣など町が協力できるか聞きたい。

答 担当部署が出来る範中で協力したい。

問 野球少年団は冬期間の練習を、妹背牛町で行っています。土間の運動施設についての所信を聞きたい。

答 沼田町の今後の為にもどうしたら良いのか充分に論議したい。

問 転入者の孤独死を防ぐためにはコミュニケーションづくりが大切と思います。移住者とのコミュニケーションをどのように考えているのか聞きたい。

答 転入時、窓口ではきめ細やかな対応をしているつもりだが、プライバシーの遵守も必要です。

孤独死の防止は、今回の件を反省に今後の対応をしていきたい。

問 沼田厚生クリニックの解体後の跡地を防災センター建設に活用するのか所信を聞きたい。

答 今までの地震災害など考えると防災センター（消防の建替）も含めて、町民の安心安全を守るためには必要と認識しています。財源を含め十分に論議したい。

6月1日に開園の子育て交流広場「えがお」

新型消防ポンプ車導入されました

入魂式を挙行

平成31年3月2日沼田町消防庁舎において、金平町長、大原消防団長、西尾第一分団長ら関係者が集まり第一分団に配属された消防ポンプ車の入魂式を行いました。全長718㎝、全幅233㎝、全高294㎝重量8930㎏、購入金額5292万円です。

平成8年式ポンプ車の老朽化に伴い新型車両に入れ替えをしました。

沼田ポンプ1

西尾第一分団長は謝辞において、これから一層の団結を持って町民の安全と安心のために邁進しますと力強い言葉を述べられました。

議会からは渡邊議長、大沼消防議員が出席しました。

装備が充実

救助器具として、エンジンカッター、チェンソー、油圧ジャッキ、油圧切断機、可搬ウインチなどが搭載されています。

総務民教常任委員会 所管事務調査報告

ふるさと納税による効果的な町づくり

委員長 久保 元宏
副委員長 鵜野 範之
委員 杉本 邦雄
大沼 恒雄
高田 勲

報告書

年々拡大する「ふるさと納税」、10年目を迎え平成29年度は受入額３６５３億円となりました。効果的に活用している自治体では、年間予算の２年間分や、数十億円の収入を得るなど、全国で様々な取り組みが積極的に行われており、収入とまちづくりが好循環している実例が多々あります。

こうした状況で、沼田町の現状と課題を考察し、今後の取り組みについて調査しました。

沼田町の平成29年度の「ふるさと納税」による寄付額は３億41万円、１９、６９９件で、基金残額は３億８７５８万円です。事業に２億６９６６万円を充当しています。返礼品には特産品である米と農産加工品で、そのほとんどに「雪中米」が利用されています。

ふるさと納税は町の工夫と取り組み方で税収を増やせる唯一の取り組みでもあり、より一層の充実が必要です。これからは豪華な返礼品ブームも収束に向かい、地域の活性化や課題解決への寄付金の使い途、自治体ばかりではなく地域産業、町民などによる施策や事業も注目されてきます。その事により寄付者が沼田町と継続的なつながりや共感を呼ぶ取り組みにより「ゆかり」を育む事業が重要と考え、下記の３点を提案します。

1、使い途と成果を明確にする

沼田町には使い途の区分が５つあり、その事業数は77事業です。この多くの事業数と構造では、成果の報告や可視化がしにくく、寄付者や町民も成果が理解できません。具体的な事業にする事により、ふるさと納税の使途や成果を分かりやすくし、寄付者とのつながりや共感を呼ぶ事業にすべきと思われます。

2、返礼品の開発に取り組む

寄付者への返礼品は町の特産品の売上やPRにつながり、地域内の経済還流を生み地域の活性化に役割を果たす可能性を秘めています。さらに寄付先を選ぶ条件として、大きく収入に左右しますので返礼品の充実が大切です。

本町においても返礼品の品数を増やすための開発や、企業への協力などの取り組みを積極的に進めるべきでしょう。また、返礼品は町が商品を買い取るため、多くの町民が参加する調達が望ましいと考えられます。

3、寄付者との継続性をはかる

これからは寄付者との継続的なつながりを持つ取り組みが重要です。

寄付が、沼田町でどの様に使われたかの成果の報告や季節ごとの様子などの情報を発信し、魅力を寄付者に知っていただき、一度の関わりから沼田町に「ゆかり」を感じられるような継続性のある取り組みが必要と考えます。この事を取り進めるには専属の職員を配置して、事業を明確化し、効果をはかるべきと考えます。

足寄町子どもセンター

産建福祉常任委員会　所管事務調査報告

更なる子育て環境の充実

委員長　長原　誠
副委員長　小峯　聡
委員　津川　均
委員　橋場　守
委員　高田　勲

報告書

沼田町での出産は、旭川や砂川の医療機関に頼っているのが現状である。

更なる子育て環境の充実を目指し、出産の不安などを解消するためにどのような行政支援ができるか調査をした。

足寄町では子どもセンターを中心に視察を行った。認定こども園、家庭的保育事業、病児保育事業、児童館・学童保育などが一つの施設に集約されているため、子どもに関する相談機能の中核として位置付けられている。また病児、病後保育事業も行っているため看護師も1名配置している。センター長が全体を把握し各事業の連携がスムーズになっている。また、乳児期から高校までの子ども達の情報が蓄積され、細やかな支援によって社会生活につなげている。

子育て応援出産祝金、妊産婦通院交通費や、出産に備えての宿泊費、新生児聴覚検査の助成を行っている。また、平成27年より給食費の無償化に取り組んでいる。

遠軽町ではおおむね18歳未満のすべての子どもとその家庭を対象として、新しい支えあいを構築する必要があることからニーズ調査を行い「子ども・子育て支援事業計画」を策定した。保育所は3歳児未満児が増加していて保育士不足のため、私立幼稚園が一時預かり保育で対応している。

妊婦検診および出産時の支援は、交通費、妊婦健診や出産のための宿泊費の助成を行っている。妊婦健康診査事業は、妊婦一人につき14回の受診票に加え、超音波検査の受診票も発行している。また、万が一救急車で搬送される状況になった時、緊急の連絡先など救急隊員が素早く判断できるように母子手帳にママメモを挟んでいる。

沼田町においてもすでに取り組んでいるものもあるが、全ての妊産婦の方が安心して出産し、自信をもって子育て出来る環境を整えるために、次の意見を付して調査報告とする。

遠軽町役場で研修

1、子育て政策の情報発信については、所管で施策が別れていて全体がわかりづらい。情報発信の方法を見直し、18歳未満までの子育て施策全般を一目でわかるようにすべきである。
2、出産に関しては、緊急時の対応として必要事項を記入した書類を作成するなど対策し、消防など関係機関との連携を図るべきである。また、出産に伴う町外宿泊施設の宿泊費の助成を導入すべきである。
3、不育症の治療の助成を検討すべきである。
4、子育て交流広場に相談機能を充実させ、助産師を配置して対応するなど複合的機能を持たせるべきである。
5、小中学校の給食費の助成を導入すべきである。

自治功労者表彰

津川均議員が、全国町村議会議長会自治功労者表彰15年以上で表彰されました。定例会前に議場にて渡邊議長より伝達が行われました。

副議長を2期務められた津川議員が今期で勇退されます。

永年に渡りありがとうございました。

議会広報特別委員会

大沼委員長、小峯副委員長を始め、今期の議会広報特別委員です。

顧みると第38回北海道町村議会広報コンクールにおいて入選することができました。その際に賞状及び広報誌の盾を記念として議場にて伝達をうけた事が思い出されます。

みんなの広場

ふるさとを愛する人を育てる

沼田町立沼田学園沼田中学校　校長　米倉卓司

沼田町には、生まれ育った地域に帰ってきたと思わせる景色があって、ふるさとに戻ったような「ホッとする気持ち」を感じます。そこには、景色だけでなく、爽やかにそよぐ風や冬の厳しい冷気、幻想的なホタルや華やかな行灯の光、美味しく育った米など、私たちの感覚を刺激する様々な要素を含んでいます。先日、生徒の写真に写る「空の青さ」に気付きました。広がる空の青色の深みの中に写る笑顔は、この環境に包まれ育ってきたからこそです。彼らが大人になったとき、そうしたふるさとの美しさに気付き、自分を育んだふるさとを懐かしく、大切に思うようになってほしいと思っています。私たちは、「ふるさとを愛し、沼田町を素敵な町にしていく人」を育てていきたいと思います。

あとがき

議会広報「みんなの議会」77号は、今期の広報委員最後の発刊になりました。歴代の広報特別委員会の思いを継承し写真をはじめレイアウト、編集構成など、すべてを議員が行ってきました。

定例会、各常任委員会報告、議会議員の活動など、多くの皆さんに見てもらえる議会広報誌を目指してきました。そのために夜遅くまで校正したことが思い出されます。

次号からは、新しい広報特別委員による「みんなの議会」が発刊されます。ご期待ください。

統一地方選挙のため、発行時期が遅れましたことをお詫び申し上げます。

広報特別委員
大沼恒雄　高田　勲
小峯　聡　長原　誠
鵜野範之

『議会広報』
2019年5月30日発行　発行者　沼田町議会　〒078-2202　北海道雨竜郡沼田町　TEL0164-35-2117